



## Lean ムーブメント ～ プログレッシブマネジメントプラクティ ～

### 1. はじめに

Lean Thinking ( リーン思考 ) が世界ではムーブメントとなり、様々なプログレッシブマネジメントプラクティスのベースとなっていることを日本ではあまり知られていないかもしれない。

そもそも Lean Thinking がどのような思考で、体系化されたプラクティスが存在するのか、それとも Thinking( 思考 ) だけでどのように実践したらよいかも含めてよくわかっていないのか、といった基本的なことについてもほとんどの IT 人材は知らないと思われる。

ところが、Agile や DevOps は多くの IT 人材は聞いたことがあるだろう。しかし、そのベースに Lean Thinking があることは知られていないのかもしれない。

### 2. Lean と Agile

Lean では、ムダを無くすための考え方として、作り過ぎのムダ、在庫のムダという観点から、バッチサイズを小さくして1個流しするという考え方がある。

これは Agile ソフトウェア開発では、固定の短い時間 (Time Box) として例えば 2 週間から 4 週間という単位 (バッチサイズ) で、要件定義、設計、開発、テスト、展開、リリースのすべてを Time Box 内で行い、2 週間から 4 週間後には、動くソフトウェアをデリバリするという考え方に相当する。

このように Agile ソフトウェア開発では、お客様が要求を出してから、それを入手するまでのリードタイムを短縮できるため、ウォーターホール開発のような大きなバッチサイズで工程を処理するようなリードタイムと比較すると圧倒的な俊敏性 (Agility) が得られる。

### 3. Lean と DevOps

DevOps では、Dev( 開発 ) から Ops( 運用 ) までの流れを平準化して流れを作ることを第 1 の道としている。

この平準化して流れを整えることも、途中で仕掛品などの在庫を最小限に抑えるための Lean Thinking の思考が活かされている。

さらに Lean では VSM(Value Streaming Map) という手法で、価値の流れを見える化する。その VSM を描くことで、価値が提供される場所であるお客様への納品 ( デリバリ ) を起点として、上流へ遡ってムダを改善することができるようになる。

DevOps の流れの中では、Dev を担当する方が、Ops( インフラチーム ) に環境の準備を依頼するケースがあると思うが、そこがボトルネックで工程がとまってしまうことが想定される。それをクラウドコンピューティングのようなセルフサービスで Dev の方が環境をオンデマンドで利用できるように仕組みを整備することで待ち時間のムダを無くすることができる。

また、構築、テスト、展開の流れをツールで自動化して、エラーがあった時にはそれを知らせて (アラート) 流

れをストップするような Lean でいう「アンドン」のような仕組みを導入するなど、流れを作っていくことができる。

どれも Lean Thinking である。

## 4. Lean と ITIL 4

ITIL の改訂版が、もうすぐリリースされるが、この ITIL 4 もバリューストリームとなっている。

従来の ITIL 2011 Edition/V3 は、サービスライフサイクルをベースとしていたが、ITIL 4 ではサービスライフサイクルよりも上位概念としてバリューストリームにより価値の流れを見ることができる。

これも Lean Thinking である。

## 4. まとめ

Agile, DevOps, ITIL 4, SIAM, VeriSM, ToC など様々なプロダクトマネジメントプラクティスの多くは、Lean Thinking をベースとしていることがわかる。

この Lean Thinking のオリジナルはトヨタ生産方式 (Toyota Production System:TPS) であり、世界の人々からみれば日本の企業はみんな Lean Thinking となっていて Lean Enterprise になっていると勘違いされることもあるだろうが、ご存知のとおり Lean Thinking になっていることのほうが少ない。

ただ、グローバルでは Lean Thinking がムーブメントであり、多くのマネジメントプラクティスのベースとなっているため、日本の企業は Lean Thinking をもっと学ぶ必要があるだろう。

### [ 著作権等 ]

本稿に含まれる情報は著作権で保護されており、DIG2 ネクスト株式会社の明確な許可無しに複製されたり、第三者に開示されたりすることはできません。

VeriSM™ is a registered trade mark of IFDC.

SIAM® is a registered trade mark of EXIN Holding B.V.

EXIN® is a registered trade mark

ITIL® は AXELOS Limited の登録商標であり、AXELOS Limited の許可のもとに使用されています。すべての権利は留保されています。

IT Infrastructure Library® は AXELOS Limited の登録商標であり、AXELOS Limited の許可のもとに使用されています。すべての権利は留保されています。

COBIT と COBIT のロゴは、米国及びその他の国で登録された情報システムコントロール財団 (Information Systems Audit and Control Foundation, 本部：米国イリノイ州) 及び IT ガバナンス協会 (IT Governance Institute 本部：米国イリノイ州：www.itgi.org) の商標 (trademark) です。COBIT® の内容に関する記述は、情報システムコントロール財団および IT ガバナンス協会に著作権があります。

Project Management Institute, A Guide to the Project Management Body of Knowledge (PMBOK® Guide)–Fifth Edition, Project Management Institute, Inc., 2016

PMBOK® Guide is a registered mark of Project Management Institute, Inc.

Agile Alliance and the Agile Alliance logo are marks of Agile Alliance.

Agile Practice Guide was jointly by Agile Alliance® and was developed in collaboration with members of the Agile Alliance®.

### [ 筆者 ]

DIG2 ネクスト株式会社  
代表取締役 鈴木寿夫

ITIL®/IT サービスマネジメントの普及促進をするために、2008 年に会社を設立し教育事業およびコンサルタント事業を行う。

ITIL® V2 サービスマネージャー認定資格取得のための研修立ち上げに携わり、ITIL® V3 エキスパート認定資

格は日本第1号資格取得者として、多くの資格者を育てた実績をもつ。ITIL® に関しては16年以上の経験と実績をもつ。

